コートジボワール国月報（２０１６年３月）

|  |
| --- |
| 主な出来事  【内政】  ●１３日、観光地として知られるグラン・バッサム（アビジャンから東に約４０ｋｍ地点）の海水浴場の西洋人客が多いホテルが武装者によって襲撃された。犠牲者１９名。  ●２４日、北東部ブナ市において、遊牧民フラニ族と農民との間で争いがあった。家畜の餌を求めて移動する遊牧民フラニ族と、それによって畑を荒らされる農民の間による争いが頻発。３０日時点で２５人が死亡。  【外政】  ●２４日、ウワタラ大統領は、フランスビル（ガボン）を友好実務訪問した。二国間協力及び国際情勢を協議した。  ●３０日、ウワタラ大統領は、フランスの邸宅で、タロン新ベナン大統領と会談した。両大統領は、両国の友愛・協力関係をより一層強化する旨述べた。  【経済】  ●２１日、Jeune Afriqueグループ主催による第４回アフリカＣＥＯフォーラムがアビジャンで開催され、４８カ国から企業のリーダー約１０００人が参加。ウワタラ大統領は、アフリカの経済発展における民間部門の重要性を訴えた。  ●３０日、ダンカン首相は、北部のオディエネ～ブンディアリ間を結ぶ道路１３４ｋｍの補修工事の起工式に出席した。イスラム開発銀行が６６０億ＣＦＡフラン（約１３２億円）を出資し、工事期間は２４ヶ月の予定。  【対日関係】  ●９日、閣議で大アビジャン圏都市整備計画が承認された。アビジャン自治区の１３自治体及び周辺の５自治体を対象に、日本からの技術的・財政的支援を受けて作成したもの。  ●１０日、在コートジボワール日本大使館とコートジボワール経済・科学研究センター（CIRES）政治・経済分析室（CAPEC）の共催により、ＴＩＣＡＤに関する講演会が開催された。講師は肥沼丸紅アビジャン出張所長。  ●２１日及び２２日、木原外務副大臣率いるミッションがウワタラ大統領及びダンカン首相をそれぞれ表敬した。５９名から成るミッションの約半分は民間企業で構成。 |

【内政】

・７日、マリ軍はコートジボワール及びブルキナファソとの国境に近いシカソ地方で武装者の襲撃を阻んだ。軍隊筋によると、襲撃者はコートジボワールからマリに入った。（ＡＦＰ）

・１３日、観光地として知られるグラン・バッサム（アビジャンから東に約４０ｋｍ地点）の海水浴場の西洋人客が多いホテルが武装者によって襲撃された。犠牲者はアフリカ系１２名（治安部隊３名含む）、アフリカ以外の外国人７名の１９名。（フラテルニテ・マタン紙、アビジャン発ＡＦＰ）

・１５日、１３日のグラン・バッサムでの襲撃について、AQIMが犯行声明を出した。攻撃は、コートジボワールのフランスとの同盟関係、及びコートジボワール当局による４名のAQIMメンバーのマリ当局への引き渡しに報復するもの。（ランテール紙）

・２２日、バカヨコ内務大臣とアドゥ共和国検事は、１３日のグラン・バッサムにおける襲撃に関し共同記者会見を開いた。今次襲撃の首謀者はクンタ・ダラー。捜査によってこれまでに１５名が取り調べを受け、襲撃への関与が明確にされつつある。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙）

・２４日、北東部ブナ市において、遊牧民フラニ族と農民との間で争いがあり、憲兵隊員１名を含む計１９名が死亡した。家畜の餌を求めて移動する遊牧民フラニ族と、それによって畑を荒らされる農民の間による争いが頻発している。（アビジャン発ＡＦＰ）

・２５－２６日にかけて、グラン・バッサムにおける襲撃関与の容疑者であるマリ国籍の男２名がマリ国内トゥンブクトゥ周辺で逮捕され、バマコに移送された。（フラテルニテ・マタン紙）

・３０日、バカヨコ内相等閣僚は、共同体間の争いが起きた北東部ブナを訪問した。これまでに２５人が死亡、４０名程度が負傷、３０００人近くが避難を余儀なくされている。（フラテルニテ・マタン紙）

【外政】

・１５日、ボニ・ベナン大統領とニャシンベ・トーゴ大統領はアビジャンを訪問し、ウワタラ大統領と会談した際、１３日のグラン・バッサムでのテロ攻撃について弔意を表した。（フラテルニテ・マタン紙）

・同１５日、ウワタラ大統領は、アビジャンを訪れたエロー仏外相、カズヌーブ内相と会談した。２大臣は、仏の支援と哀悼の意を表した。（フラテルニテ・マタン紙）

・１６日、ウワタラ大統領は、モディボ・ケイタ・マリ首相と会談した。同首相は、ケイタ・マリ大統領からのテロに関するメッセージを伝えた。同首相は、この困難の中にあるコートジボワール国民に対し、マリは共感、哀悼の意を示すとともに、支援を伝える義務があると述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

・１８日、サルコジ元仏大統領は、アビジャン及びグラン・バッサムで襲撃にあった現場を訪問した。同大統領は、コートジボワールは民主主義の国になったために攻撃されたと述べるとともに、同大統領は民主主義へ支持を示すため、攻撃の直後に現地を訪れたと述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

・１７日、ウワタラ大統領は、サーリーフ・リベリア大統領と会談した。サーリーフ大統領は、テロとの戦いへの支援を表明した。（フラテルニテ・マタン紙）

・１９日、ウワタラ大統領は、サル・セネガル大統領と会談した。サル大統領は、テロ攻撃に対しコートジボワールが取った措置に加え、追加的な措置が地域レベルで取られると述べた。同大統領は、ウワタラ大統領の今次攻撃に対する迅速な対応に賛辞を贈った。（フラテルニテ・マタン紙）

・２２日、ウワタラ大統領は、マハマ・ガーナ大統領と会談し、グラン・バッサムでの襲撃及び域内における治安情勢につき意見交換した。（フラテルニテ・マタン紙）

・２４日、ウワタラ大統領は、フランスビル（ガボン）を友好実務訪問した。二国間協力及び国際情勢を協議した。（フラテルニテ・マタン紙）

・３０日、ウワタラ大統領は、フランスの邸宅で、タロン新ベナン大統領と会談した。両大統領は、両国の友愛・協力関係をより一層強化する旨述べた。ウワタラ大統領は、タロン大統領の成功を祈るとともに、選挙が平穏理に行われたことを喜んだ。（フラテルニテ・マタン紙）

【経済】

・１日、ダンカン首相は、モロッコのＡＤＯＨＡ社の子会社であるＣＩＭＡＦ社の、ヨプゴン工業団地の新セメント製造ユニットの開所式に出席した。同ユニットは２００億ＣＦＡフラン（約４０億円）で建設され、年間製造量は５０万トンから１００万トンへ増加した。（フラテルニテ・マタン紙）

・１６日、閣議で、約７０万人の顧客と８００人以上の従業員を抱えるコートジボワールCaisse Nationale des Caisses d'Epargne銀行の経営継続のため、３５０億ＣＦＡフラン（約７億円）の追加資金投入が決定された。（フラテルニテ・マタン紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ランテール紙、ノール・スュッド・コティディエン紙、ル・パトリオット紙）

・２１－２２日、Jeune Afriqueグループ主催による第４回アフリカＣＥＯフォーラムがアビジャンにて開催され、４８カ国から企業リーダー約１０００人が参加した。ウワタラ大統領は、開会式で、アフリカの経済発展に貢献する強い民間部門の必要性を訴えた。（フラテルニテ・マタン紙）

・２３日、ダンカン首相により、アボボ地区にて、道路（１１ｋｍの新設と１２ｋｍの修理。コートジボワール・世界銀行・フランス開発庁が１１８億ＣＦＡフラン（約２４億円）出資）等、複数のプロジェクトが開始された。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・ヌーボー・レベイユ紙）

・３０日、ダンカン首相は、北部の２都市オディエネ～ブンディアリ間を結ぶ１３４ｋｍの道路の補修工事の起工式に出席した。イスラム開発銀行が６６０億ＣＦＡフラン（約１３２億円）出資し、工事期間は２４ヶ月を予定している。（フラテルニテ・マタン紙、ノール・スュッド・コティディエン紙）

【対日関係】

・９日、閣議で大アビジャン圏都市整備計画が承認された。アビジャン自治区の１３自治体及び周辺の５自治体を対象に、日本からの技術的・財政的支援を受けて作成したもの。（フラテルニテ・マタン紙）

・１０日、在コートジボワール日本大使館とコートジボワール経済・科学研究センター（CIRES）政治・経済分析室（CAPEC）の共催により、ウフエ＝ボワニ大学において、ＴＩＣＡＤに関する講演会が開催された。講師は肥沼丸紅アビジャン出張所長。（ノートル・ヴォワ紙）

・２１日及び２２日、木原外務副大臣率いるミッションがウワタラ大統領及びダンカン首相をそれぞれ表敬した。５９名から成るミッションの約半分は民間企業で構成。（フラテルニテ・マタン紙）